

令和6年度 第1回 千葉市自立支援協議会 運営事務局会議 議事録

開催日時	2024（令和6）年5月23日（木）14時00分～16時00分
開催場所	若葉保健福祉センター 3F 大会議室
出席者 〔敬称略〕	<委 員> 伊藤 佳世子 氏（中央区障害者基幹相談支援センター 管理者） 近藤 秀登 氏（花見川区障害者基幹相談支援センター 管理者） 井出 孝子 氏（稲毛区障害者基幹相談支援センター 管理者） 由良 亮人 氏（緑区障害者基幹相談支援センター 管理者） 藤本 真由美 氏（美浜区障害者基幹相談支援センター 管理者） 末永 慎介 氏（にも包括・鎌取相談支援センター 施設長） 高柳 佳弘 氏（メープルリーフ 運営管理者） 藤尾 健二 氏（千葉障害者キャリアセンター センター長） 平田 智子 氏（千葉市ひきこもり地域支援センター 事業責任者） 鈴木 信知 氏（千葉市社会福祉協議会 地域福祉推進課 地域福祉推進班 班長） 仲村 美緒 氏（千葉市発達障害者支援センター 所長） 山崎 貴裕 氏（中央区高齢障害支援課 障害支援第二班主査） 木村 一夫 氏（花見川区高齢障害支援課 障害支援班主査） 荒井 拓 氏（障害福祉サービス課 指導班 主査） 北田 幸一 氏（障害福祉サービス課 施設支援班 主査） 北島 岳彦 氏（障害福祉サービス課 地域支援班 主査） <オブザーバー> 内山 敏男 氏（千葉市社会福祉協議会 地域福祉推進課 課長） 吉田 美穂 氏（障害福祉サービス課 地域支援班） <運営事務局会議事務局> 伊藤 正彦 <委員>（若葉区障害者基幹相談支援センター 管理者） 信太 有里（若葉区障害者基幹相談支援センター ソーシャルワーカー） 檜山 智耀（若葉区障害者基幹相談支援センター ソーシャルワーカー） 合計 21名

	＜欠席＞	
	四方田 清	(にも包括・ワーナーホーム鎌取相談支援センターセンター長)
	土屋 昌之	(有限会社トータル介護サービスアイ 千葉営業所 所長)
	垂水 成人	(障害者自立支援課 企画班 主査)
	藤崎 直樹	(障害者自立支援課 給付班 主査)
	永井 智也	(精神保健福祉課 精神保健福祉班 主査)

1. 参加者自己紹介、報告事項〔敬称略〕

若葉区障害者基幹相談支援センター伊藤) 若葉区では多種多様な相談を受けている。ADL が自立している方の相談が増えている印象。引きこもり傾向のある方や療育手帳を成人してから取得したい方もいる。他にも家族全体で支援が必要なケースも引き続き対応しているところ。放課後等デイサービスの利用希望の相談を受けることが多いが、事業所の空きがほとんどなく案内出来ないケースも増えてきている。

緑区障害者基幹相談支援センター由良) 緑区は下総精神医療センター、千葉リハ、こども病院という大きな病院があるのが特徴。そのためか他区よりも年少人口が多く、相談実人数のうち2割が児童となっている。

中央区障害者基幹相談支援センター伊藤) 中央区は人口が一番多い区であり、千葉駅もある。そのため、市外からも来ることが多い。事業所も就労系は中央区に多い為、充実している。ヘルパーが見つからない問題・駐車場問題がある。

花見川区障害者基幹相談支援センター近藤) 区事情の前に市概況として、毎月千葉市の基幹6区の管理者がネットワーク会議をしている。千葉県内の基幹の集まりで千葉市は千葉市ブロックとして参加し、花見川、中央で役員を務める。地域づくりで報酬改定では拠点にシフトされているが、他市とも共通した課題等を共有している。花見川区は農村部から都市部があり、外国籍の方の課題・団地での8050での課題等が多く持ち込まれている。

稲毛区障害者基幹相談支援センター井出) 稲毛区は3月・4月相談ケースが多い傾向だった。引っ越し転入ケースが重なった。精神で不調な人が多く入院へ繋げるケース、消防局からの頻回利用者のケースもあった。困難ケースもあるため、地域の人と関わりながら解決したい。

美浜区障害者基幹相談支援センター藤本) 美浜区は埋め立て地でほぼ出来ており、新しい町、若葉幕張新都心若葉住宅地区のまちづくり等の影響で保育園や社会資源が足りない状況になっている。直接障害に関係はないがそれに付随した相談も来ている。また、美浜区基幹は職員の欠員が出ており、相談をお待たせしてしまう状況となっているため申し訳ない。

鎌取相談支援センター末永・にも包括四方田氏の代理で出席) 鎌取相談支援センターは昨年度地域移行で36人退院できた。22年度18名だったので倍増。受け入れ先は9割以上GH。アパートや自宅へ戻れるのが課題と考えている。傾向としては、入院して3ヶ月から6

ヶ月辺りで地域移行の依頼がある。超長期化だと20年入院している人もいるがそういったケースの依頼は意外となく、入院6ヶ月で退院可能だが家族拒否、といったケースが増えている。

千葉障害者キャリアセンター藤尾) 民間企業の法定雇用率は2.5%となり、企業の雇用機会が増えてきたが、働き手が少ない。学校の卒業生には無理して就職している人も増えているのではないかとと思われる人もいて、企業から見た時の就労に向く人材と受けた時の実際の人材とのギャップがあるのか、入ってから1年〜2年で相談が入るケースが増加。千葉市内の各資源と連携を取りながら就労に向けた取り組み、企業へのアプローチが必要。メープルリーフ高柳) 障害福祉サービス事業者ヘルパー協議会の立場で参加している。事業所としては国からの報酬改定で特定事業所加算が取りにくくなったという印象。処遇改善の区分が下がり資格がないと入れられない状況の中、新しい人材を入れるか悩みながらやっている。訪問介護のヘルパー不足はこの先も顕著に出てきそう。

千葉市ひきこもり地域支援センター平田) ひきこもり地域支援センターは現在新規の相談が1ヶ月待ち。6人で6区市内全域を見ているため人手不足。小学生から60代ぐらいまで相談がきている。緊急ケースは早めに対応できるように心がけている。あまりケースを持ちすぎてしまうと、職員のメンタルが大丈夫か心配になるため、悩みどころとなっている。

千葉市発達障害者支援センター仲村) 発達障害者支援センターの相談傾向は特に変わりなく、児童と成人半分くらい。学校不適應の相談が増える時期。今年は療育センターの大規模改修があるため稲毛高校の近くの療育センター分館“はまのわ”に仮移転する。

社会福祉協議会地域福祉推進課鈴木) 社会福祉協議会では6区の事務所があり、そちらに寄せられるケースで皆様と連携を取らせてもらっている。集いの場で酸素ボンベをつけている人も参加してくれている。コロナ前の活動状況にはもう一歩必要だが地域としての活動は少しずつ回復している印象がある。

社会福祉協議会地域福祉推進課内山) 地域福祉推進課でボランティアセンター、災害ボランティア、地区部会、CSW(コミュニティソーシャルワーカー)を所管している。相談機関が受けた相談について、CSW含め地区部会や民生委員さんなど地域の窓口となれるようにしたい。近況では輪島市へ災害ボラセンの運営をしてきた。

花見川区高齢障害支援課木村) 花見川の高齢障害支援課におりまして、地域的にみると花見川区は八千代市、習志野市、船橋市の事業所を利用される方が多いのが特徴。日々の窓口対応で精神疾患の方からの申請が多いと感じている。相談・問い合わせを受ける中で地域の事業所と連携しないと行政のみでの対応では限界がある。本会議のような広域的な会議で意見交換をしながら引き続き色々な所で連携しながら業務に当たればと思う。

中央区高齢障害支援課山崎) 中央区高齢障害支援課におりまして、地域部会には参加しておりますが運営事務局会議は初参加。中央区の特色は千葉市内で人口が多く、障害も多岐にわたり生活している。高齢で障害手帳持っている人がいる。各種病院も近隣にあるので生

活保護の人も多い特徴がある。

障害福祉サービス課施設支援班北田) 4 月は報酬改定があり事業所の方とのやりとりが多くあった。一つずつ課題を皆様と協力して行きながら対応して行きたい。

千葉県障害福祉サービス課指導班荒井) 障害福祉サービス課は落ち着いた時期があまりなく、いろいろなテーマが出てくる。指導班では主に児童を担当しているため、関連した課題に取り組んで行きたい。

千葉県障害福祉サービス課地域支援班北島) 地域部会・運営事務局会議でいただいた課題を皆様と協力しながら市の施策に活かせるよう進めて行く。

千葉県障害福祉サービス課地域支援班吉田) 基幹・地域生活支援拠点の担当、以前は地域包括ケア推進課で認知症の方の家族が集まる場の普及啓発をしてきた。高齢から障害へ変わったが、引き続き関係機関で連携しながら課題解決へと進めて行きたい。

【各種会議の報告・検討事項】

1. 各区地域部会

若葉区伊藤) 自立支援協議会は年 6 回開催。その前に基幹ネットワーク会議を毎月開催。

その下に各区基幹で行っている地域部会・意見交換会・児童の意見交換会を行っている。

重点課題で医ケア・拠点の会議・行動障害を考える会もある。それ以外に、にも包括・就労部会がありこれらを発表するのが年 1 回 8 月にある全体会。会議を経て地域の課題を集約して千葉市に報告している。

全体会は 8 月 23 日 (金)、次回の運営事務局会議は 7 月 25 日、緑区が担当となる。

(資料 6 参照) 各区基幹から報告

中央区伊藤) 児童の新規ケースが前年比で 25~30%伸びている。計画相談を付けて欲しいという依頼があるが探すのが難しい。特別支援学校も年々人数が増えている。小学校入学の段階は通常級、小 4 で支援級へ行く人が多い。一方で幼稚園、保育園、児童家庭支援センターから発達相談を進められることが増えている。『療育からは通常級、教育からは療育』と言われて、親御さんが悩むケースもある。中央区の地域部会は、今年度困難ケースの事例検討をして行く予定。

近藤) 4 月の地域部会は民生委員・児童委員、地域福祉に関心の高い方として社協地区部会の障害者福祉委員会からも参加してもらい、民生委員は高齢者の問題、それにまつわる 8050 問題、障害福祉委員会は虐待について勉強会等を開いており、地域課題に意見を述べてもらった。

井出) テーマは大規模災害。地域部会の前に開催した意見交換会も同じテーマで開催。相談員としてこういったアプローチが出来るかを検討。備蓄品の持ち運び、避難ルートの確認、災害用伝言ダイヤルの利用等、モニタリング時に働きかけて行きたいという話をしている。地域部会では、学校の訓練、能登半島の被災地支援、親の立場で感じることについて

ご意見いただいている。

藤本) 課題の抽出をするために意見を頂いている。ゴミ屋敷の方の対応、知的の方と福祉との繋がりが薄い方や 8050 問題が挙げられた中で多かったのは、児童の話。虐待、一時保護解除後のフォロー、ヤングケアラー、グレーゾーンの子の居場所、家族の複合課題、各区機関での役割分担についてあげられた。災害について今後もし取り上げて行く予定。6 月の地域部会ではグレーゾーンの小、中、高校生の居場所について話を深めて行く。

若葉区伊藤) 報酬改定もあったため、児童発達支援の保育所等訪問について受け入れる保育園の課題等の話を伺った。受け入れる側も人員が必要になる為、すべて受け入れるのは難しく、保育園も対応方法を考えるという話を頂いた。児童の SS 先も少なく、千葉市で子育て支援短期事業の申し込みが増えている。障害手帳の有無で断らないが一度お会いして職員が対応できるのかどうか総合的に判断して対応するという事だった。GH の地域連携推進会議を今後して行くが、介護保険ですでに参加している方にこういった内容が話し合われているか話を伺った。

由良) 地域における多職種連携として、救急車頻回利用者をテーマにして千葉市消防局の救急管理係の方をお招きしてお話をいただいた。頻回利用者は 1 人が 7 回以上救急要請をかける方になっている。対応として、基幹、福祉サービスの介入によって減少している状況。あんしん、生活自立、福まると連携して、地域で支援する体制づくりが必要なことを話し合った。

(資料 市基幹相談支援センター令和 5 年度年次報告 参照)

北島) 国に毎年報告している資料で、各区基幹から集計して市全体の数字となっている。実人員 3,402 名、令和 4 年度 3,403 名で昨年度と変わらない。支援方法 31,982 件、令和 4 年度 23,803 件となり、昨年度と比べてかなり増えている。開所時間内の相談が 29,626 件、開所時間外が 2,356 件。開所時間内の相談が 93%、開所時間外が 7%、一定数開所時間外の対応もある。

若葉区伊藤) 全体の実人員が 3,402 人、障害者が全体の 84%、障害児は 16%。種別として障害者は精神が約半数、知的、身体と続き、基本的に千葉市全体で同じ傾向が見られている。障害児はその他が一番多く、知的、発達と続く。

中央区伊藤) 中央区の特徴として、訪問・同行支援に力を入れてきた。毎月の新規登録が 40 件を超えてきている。割合では継続 6 割、新規が 4 割。仕事の 3 分の 1 が移動時間となっており、課題と考えている。ピアスタッフが今年度もう少し活動できるかと思っている。

近藤) 唯一記録ソフトを使っておらず、記録に時間が取られている。初回面談は 2 名体制で受けている。終結がしづらいつ感じている。

井出) 令和 4 年度は職員体制が整わず、欠員があった。令和 5 年度は職員体制が整ったため、件数が増えた。基幹の周知も進み、関係機関の相談も増えている。計画相談を探してくださいという相談が多く入っている。セルフプランの案内をし、繋いだ後も定期的に様

子を伺い、継続したサポートを行うように努めている。困難ケースが増えてきている印象、基幹単体だけでなく関係機関と連携して行きたい。

藤本) 相談件数としては、2年前と比べて倍以上になっている。基幹の認知も進み、相談が入るケースが増えてきている。昨年度までウクライナの一時避難先があったため、お子さんの発達心配されている方の相談を受けていた。転居する方はアセスメントを取って支援を繋ぎ、千葉市の方はそのまま継続している。

若葉区伊藤) 特徴として、他区と比べて来所相談が少ない。訪問や同行、電話相談が増えている。児童の相談が多く、最初はほとんどがセルフプランからスタートしている。その後、相談員を紹介しているケースもある。開所時間の案内を行い、開所時間外の相談件数が少なくなっている。

由良) 実人員の518名中118名が障害児。障害種別としては、精神の次に身体の方が多いのも特徴。子ども病院、千葉リハがあり、身体の方の相談が多くなっていると考えている。事業所が保健センターの近くにあることから来所相談に繋がることもある。児童の相談が多いためセルフプランの支援が多くなっている。

末永) 「相談支援を利用している障害者等の人数」は計画相談がついているのか、基幹が対応した人数なのか。

若葉区伊藤) 基幹が対応した人数。中には、計画相談がついている方も含まれている。

末永) 支援内容について「健康・医療に関する支援」と「不安の解消・情緒安定に関する支援」を見比べると各区で違う感じがする。地域特性があるのか。

北島) 最近取りまとめたので分析がまだできていない。全体会で改めて報告をさせて欲しい。

(資料 7-1 令和5年度地域生活支援拠点等・コーディネーター 事業報告)

近藤) 千葉市は「緊急を緊急にしない取り組み」をキャッチコピーとし、啓発している。特に重い障害の方は環境が変わり不応で拠点の取り組みで初めての所へ行くのが課題となりがちだが、その準備として、慌てない為に慣れておきましょうという啓発と体験のための短期入所利用推進を行う。就労していて福祉のどこにもつながらない方を対象にキャリアセンターの在職者交流会を通し、拠点利用の啓発活動を行った。今年度は更に啓発活動を進めて行く計画を立てている。

中央区伊藤) 千葉県に拠点が30ヶ所あり、横のつながりを作れるように大会を開く予定。

(資料 7-2)

藤尾) 令和5年度在職者交流会で反響が大きかった。今年度は開催案内を届ける方法も一緒に考えられたらと思う。

末永) 令和6年度報酬改定で地域生活支援拠点の加算内容が厳しくなった。報酬改定後に要件を満たして新たに登録があったのか、その件数がどれぐらいなのか。千葉市として、方針があれば教えてもらいたい。

北島) 新しくできた拠点等機能強化加算はコーディネーター1名配属する加算でそれを取っ

たところはまだない。現在基幹に1名コーディネーターを配置。その機能をどう活かして行くのかは検討中。

(資料8 令和6年度医療的ケア部会 年間計画)

中央区伊藤) 今年度もワーキングと検討会を各月で開催。新生児から地域移行の課題を整理、通所事業所、入浴の工夫について共有して行く。個別避難計画を今年度も進めて行く話があるので、具体的に決まったら防災対策課と連携して行く。今年度は、教育委員会が学校にメディカルサポーターを配置していて、医ケアのある方の支援をされている。その取り組みについて報告していただく予定。

(資料9 令和5年度 就労部会 部会報告)

藤尾) 令和5年度は就労系の福祉サービスを中心にアンケート調査を実施した。B型、移行、A型の順で事業毎に集まり、基調講演と意見交換を行った。令和6年度は、受注問題、企業について話し合っていく。事業所別の意見交換会も開催予定。5月10日に移行の意見交換会を開催。事業所45名、支援機関を合わせて65名が参加。5月14日に第1回目の部会を開催し、9月12日に千葉市役所でA型、B型の意見交換会で何をするか検討した。共同受注の取り組みで就労事業振興センターと連携して行く話でまとまった。三重県には施設外就労を一括した窓口があるので、話を聞いてこようと思う。その他の取り組みとして、千葉Aネットという千葉県全体のA型の集まりがある。この情報をもとに就労部会として検討して行く。令和5年度は施設運営の話が多く、支援の困難さが見えてこなかったという意見があり、情報を集めることが必要だと考え、情報を発信する仕組みを考えて行くことになった。令和7年10月以降に開始予定の就労選択支援事業について移行と部会の中で今後考えて行きたい。

(資料10-1.2.3 千葉市にも包括)

末永) 令和5年度進め隊は地域移行支援普及活動を専門職向けに行った。広め隊は地域住民・若年層等への広報啓発活動の実施、深め隊は当事者の活動支援、ピアサポーターの活用事業。分科会ごとに課題があり4月～6月で課題抽出、分析の時期となっている。千葉市にも包括広め隊地域住民向け精神講演会は令和5年度全区で開催できた。令和6年度も全区で開催予定。進め隊講座は、これまで一定の参加者と『にも包括って何だろうか』と考えながら病院、GH、相談支援事業所等と検討してきた。今年度はそれを還元して行くこと、参加者の範囲を広げて、居住支援協議会やアパート暮らしをしている方へのサポートも行いたいと考えている。

内山) 講演会をお願いできるということだが、地区社協、ボランティア、民生委員に対してもお願いできるのか。

末永) 市民向けの公民館講座に参加できる。講座の要望があれば対応も可能。

(資料なし) 行動障害を考える会

由良) 令和6年度は2つの事業展開があり、1つ目は厚生労働省の指針に基づく行動障害の実態調査の実施。6月上旬に配布、7月中に集計予定。障害区分認定調査において行動関連項目のスコアが10点以上の在宅で生活する方が対象。2つ目は行動障害のある方への対応についての研修講座の実施を計画している。その他に、ケースの対応の実践報告、事例検討も行って行く予定。またひとつが<講座案内>

7月17日(水) 10:00~ 発達障害者支援センター 仲村様からの話

9月18日(水) 時間調整中 メープルリーフ 高柳様からの話

詳細については、千葉市を通して、千葉市内の事業所へ周知。ZOOM開催(定員300名)

藤尾) 研修を広く発信したい。就労系も含めてすべての事業所へ案内が届くのか。仮に障害者を雇用している企業が受けたいとなった場合はどうか。

近藤) 就労系の事業所へも案内を送る。企業の参加も問題ないが、リストがないため案内の仕方が難しい。

平田) 案内を受けて、こちらから他の支援者へ案内することは可能か。

近藤) ダメという条件はない。配信の設定上、定員100名を超えなければ大丈夫。制限を設けるとなると理由付けが難しい。

北島) あまりがあれば受け入れ可能。枠がいっぱいになった場合は、市の事業なので優先することがあるかと思う。

2. その他

仲村) 発達障害者支援センターの事業の案内(資料11)

千葉市の事業所であれば全て対象。発達障害のあるお子さん、発達障害のある方、発達障害があるかもしれない方の対応に困っている等の相談を受けている。事業所を支援するので対象の方の同意が不要。一番多いのは、幼稚園や保育所で発達障害ではないかと心配して、先生たちが行動に困った際に行動観察して対応のアドバイス・保護者へのアドバイスをしている。学齢期の学童、アフタースクールの対応で困っている等あれば対応可能。企業も対象。勉強会の講師派遣も行っている。発達障害の基礎知識、高校生の発達障害・高卒後の進路等ポイントを絞っての講演もできる。

藤尾) 基幹の今後ってどうなるのかなって気になっている。どんどん忙しくなっている。ケアマネの課題の検討会を厚労省がやっていると思う。何でも屋であることがある意味存在意義でもあるけれど、きちんと体制を整備しないといけないと思う。基幹は隙間を埋めて行く役割が引き続き残ると思う。ある程度、形になったものは引き継ぎ先が決まっていればもっと動きやすくなると思う。そうでないと、あれもこれもやらないといけないとな

って、疲れ切ってしまうのではないかと考えている。例えば、就労部会の事務局をうちが担う形になったのも、移管するような意識をもってやっていかないと限界があるのではないかと考えている。そういう動き、バランスが必要なんじゃないか。

北島) ご意見ありがとうございます。今年度中に5年間の運営法人を決める手続きがある。

抜本的な体制変更はなかなか難しいかもしれませんが、人員の問題等検討して行きたいと考えている。

藤尾) 増員すること自体はいいと思うけれど、雇ったら終わりとはならない。継続して勤務してもらうためにも昇給の体制等も必要。中核も同様の悩みを抱えているので、その点も含めて検討してもらいたい。

近藤) 再犯防止、8050等のケースでどれくらい時間がかかるか等、業務分析を進めているところ。全体会等で報告したいと思っている。業務に関しても棲み分け等も含めて今後考えて行きたい。

次回 7月25日(木) 14:00~16:00 緑保健福祉センター大会議室